

森林総合研究所の平成26年度
業務の実績に関する評価(案)
に対する委員意見

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員	
大項目	評価単位			
第1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	1(1)A	地域に対応した多様な森林管理技術の開発	A1に関してはe-forestが開発されるなど、着実に成果が上がってきているようである。A2に関してはさらなる成果が期待される。年度計画が達成されておりB判定は妥当であろう。	中山
	1(1)B	国産材の安定供給のための新たな素材生産技術及び林業経営システムの開発	B判定は妥当と考える。今後の課題として、 ・低コスト機械作業システム、施業シミュレーションシステムなど、現場での活用を目的とした技術は研修等丁寧な普及活動を進める必要がある。	田村
			タワヤーダーについては、車体の大きさの故、急傾斜地の狭い林道や作業道では使用できなかったり、30度を超す急傾斜地の沢沿いの林道への下げ荷では危険性が増すなど制約条件も多い。日本の急傾斜地の実情に合わせて適用出来ないケースを明確にした上で普及していかないと、現場で混乱を招くおそれがある。	榎本
			年度計画は達成されておりB判定は妥当であろう。ただ「木材生産のためには林業労働力の確保が必要」であることは、ある意味あたりまえと言われないうように、表現を工夫していただけるとよいと思われる。	中山
	1(2)C	木材の需要拡大に向けた利用促進に係る技術の開発	国産型枠合板、構造用MDF、塗装木質建材の開発および関連規格への反映は、年度計画以上の成果であり、A判定が妥当と考える。	田村
			A材の需要拡大が日本の林業再生にとって大きなテーマである。その意味で、無垢製材品需要の見直しと無垢材の利用促進に資する技術の開発が要望されている。	榎本
			この分野では、森林総研ならでの(大学や民間機関ではできない)成果もあげている。竹材や国産広葉樹の用途開発についても期待される。評価はB～Aであろう。	中山
	1(2)D	新規需要の獲得に向けた木質バイオマスの総合利用技術の開発	木質バイオマスエネルギー事業採算評価システムを開発したことは評価できる。昨年より更に各地で新規プラントが稼働を始めており、これらのデータを入れ更なる精緻化を図ってほしい。これは今後のFIT買取価格決定にも役立つものである。	榎本
H26に関して非常に成果の上昇した分野である。多くの研究費も獲得してきている。他研究機関との連携も含めて、今後の研究の発展が期待される。評価はAで妥当であろう。			中山	

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員
大項目	評価単位		
第1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	1(3)E 森林への温暖化影響評価の高度化と適応及び緩和技術の開発	年度計画に沿った成果を得られ、B評定が妥当と考えられる。	田村
		今後の日本の温暖化対策に対する政策に寄与する研究がなされ、二国間クレジット制度の政府公式版となったことは素晴らしい成果である。	榎本
		研究成果だけでなく、COP20、IPCC第5次報告書、REDDプラスCookbookなど 森林総研ならではの国際的な活躍を評価できよう。A評定は妥当である。	中山
	1(3)F 気候変動に対応した水資源保全と山地災害防止技術の開発	森林の放射能汚染や海岸防災林の効果など“国民が知りたいこと”についての情報提供は評価できる。アジアモンsoon地帯での調査研究も興味深い。計画通り進捗しておりB評定は妥当である。	中山
	1(3)G 森林の生物多様性の保全と評価・管理・利用技術の開発	ブナの結実メカニズムの解明を世界で初めて実験により実証した。今後群落レベルでの結実の豊凶メカニズムの解明につながり、クマを始めとする野生動物の保護管理手法など幅広い分野での応用が期待できることから、A評定が妥当と考える。	田村
		具体的な鹿の密度低減の手法が明らかにされ、現場での具体化が期待される処であるが、更なる手法の開発も期待したい。	榎本
		G1で扱うシカ対策やナラ枯れ対策など早期解決が待たれている問題を含み、現場との連携が必要であろう。G2では基礎的な研究に対し森林学会賞などの評価を受けている。評定Bは妥当であろう。	中山
	1(4)H 高速育種等による林木の新品種の開発	エリートツリーの開発が順次進められ、原種配布が開始されたことは現場に取って待ち望んでいた所である。これらの育林体系の確立が待たれる。	榎本
昨年の3倍の論文数であり、新品種の開発や高速化などが論文としてまとまってきたのであれば大変喜ばしいことである。中期目標に向かっておりB評定は妥当であろう。		中山	

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員
大項目	評価単位		
第1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	1(4)I 森林遺伝資源を活用した生物機能の解明と利用技術の開発	バイオテクノロジーを利用した無花粉スギの作出に成功したことは素晴らしい成果である。	榎本
		I2、I3が「予定以上に(想定以上に)進捗しているのであれば、外部評価がAになっていてもよいのではないか?また、<今後の課題>の記載は必要かと思われる。単年度の評定がBであるのは妥当であろう。」	中山
	1(5) 研究基盤となる情報の収集・整備・活用の推進	着実に進められている。	榎本
		予定通り情報の収集公開が行われており、B評定で妥当である。	中山
	1(6) 林木等の遺伝資源の収集、保存及び配布並びに種苗等の生産及び配布	B評定は妥当と考える。今後の課題として、・絶滅危惧種等の遺伝資源の収集・保存に一層取り組んでいただきたい。	田村
		着実に進められている。	榎本
		予定通り遺伝資源の収集公開が行われており、B評定で妥当である。	中山
	2(1)ア 事業の重点化の実施		
	2(1)イ 事業の実施手法の高度化のための措置	B評定は妥当と考える。期中評価において、「広葉樹林化した箇所」および「生育遅れのうち今後順調な生育が見込めない箇所」はどの程度あるのか。これらの取り扱いはどのようにするのか。	田村
	2(1)ウ 事業内容等の広報推進		

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員	
大項目	評価単位			
第1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	2(1)エ	事業実施コストの構造改善		
	2(2)ア	計画的で的確な事業の実施		
	2(3)	廃止・完了後の事業に係る債券債務管理、その他の債権債務及び緑資源幹線林道の保全管理業務の実施		
	3	行政機関、他の研究機関等との連携及び産学官連携・協力の強化	他の研究機関との連携や民間企業団体などへの成果発表を要望に応じて積極的に行なっている。	榎本
			産学官の連携、東電の事故に関わる関連機関との連携など 目標達成に向かって順調に進んでいると思われる。B評定で妥当であろう。	中山
	4	成果の公表及び普及の促進	毎年発行される成果選集は研究成果をトピック的に非常に解りやすい表現でまとめられており、森林科学の素人にも理解しやすい表現がなされており、研究成果の公表と普及について大きな役割を果たしている。	榎本
			研究成果の公表は、学術的には論文、実務的に特許であるが、そのほかに広報誌、Website、マスコミ、公開講座など様々な工夫がされている。論文の質の評価も加味したいとのことであるが、具体的な方法を公開していただきたい。B評定は妥当である。	中山
	5	専門分野を活かしたその他の社会貢献	外部からの依頼による研修講師を前年度より57人多く派遣しており分析鑑定においても、社会の要請に答えている。更に国際協力においても人材を派遣しその役割を充分果たしていると認められる。	榎本
			分析・鑑定、講習・指導、国際機関や学会への協力 この3項目について 積極的に貢献されている。B評定は妥当であろう。(A評定にはならないでしょうか…)	中山

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員
大項目	評価単位		
第2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	1 効率化目標の設定等	東日本大震災に対処するための給与の減額措置が終了したことから人件費が増加しているが、その他の経費については前年比で削減されており評価に値する。	文野
		経費の節減について目標を達成していることを評価する。肝心の研究開発業務に支障が無いよう配慮する必要がある。水源林造成事業の一般管理費の削減が目標を超えて削減されたことを評価する。	榎本
	2 資源の効率的利用及び充実・高度化	研究職員の研修受講者数が大幅に増えており、組織的なスキルアップが図られている。	文野
		各種の研修会に前年の5割増の研究職員を派遣し資質の向上に務めたことを評価する。このような研修会への参加は資質の向上に資することはもちろんであるが、他の参加者との交流による人間関係が広い意味での研究の広がりにも資する面がある。	榎本
		入所時期によっては学位が必要でなかったことは承知しているが、未取得の研究員にはぜひ取得するようバックアップしていただきたい。B評定で妥当であろう。	中山
	3 契約の点検・見直し	競争性のない随意契約や競争入札によるも結果的に1者応札となっている契約の金額は減ってきているが、1者応札となったものについては仕様書の見直し等を図るなどの一層の縮減が求められる。	文野
	4 内部統制の充実・強化	コンプライアンスや情報セキュリティの研修は、一度やったからといって効果が続くものではないため、引き続き繰り返し実施していくことが重要である。	文野
		コンプライアンス推進室を新設し、組織体制を強化したことを評価するが、今後の適切な運用が望まれる。	榎本
		所属機関の倫理委員会等を経っていないと せっかく研究しても今後は成果の公開もできなくなると恐れられます。研究成果が正しく評価されるように組織として対応してください。	中山

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員	
大項目	評価単位			
第2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	5	効率化・効果的な評価の実施及び活用	外部評価委員による評価等が実施されるなど対外的な視点からの評価は有効である。	文野
			研究の質の向上と目標の明確化には、民間を含め現場との交流が欠かせない。現在の林業、木材産業の悩み、問題点を身をもって実感して頂く意味で、研究者の現場視察と交流を推進する必要がある。研究業績の新評価方式を導入して適切な業績評価を行うことは評価する。	榎本
第3 財務内容の改善に関する事項	1(1)	業務の効率化を反映した予算の作成及び運営	毎年削減が実施されているなか26年度においても前年比で削減されていることは評価に値する。	文野
	1(2)	自己収入の拡大に向けた取組	26年度は前年比で件数、金額とも上回っており評価に値する。	文野
			積極的に外部の研究プロジェクト等に応募し外部資金の獲得額を昨年以上に伸ばしたことを評価する。	榎本
	2(1)	長期借入金等の着実な償還	長期借入金、研究所債券ともに着実に償還されている。	文野
	2(2)	業務の効率化を反映した予算の作成及び運営	一般管理費で若干前年実績を上回っているものの、人件費及び事業費では前年実績を下回っており評価に値する。	文野
第4 短期借入金の限度額	2	短期借入金(水源林造成事業等)	年度内の一時的な資金不足を補うための短期借入金であるが、年度末に着実に償還されている。	文野
第5 不要財産の処分及び不要財産以外の重要な財産の譲渡に関する計画		不要財産の処分及び不要財産以外の重要な財産の譲渡に関する計画	立木の販売は計画的に実施されている。	文野

平成26年度業務の実績評価についての意見等

評価項目		意見	委員	
大項目	評価単位			
第7 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項等	1	施設及び設備に関する計画	26年度は必要最小限の改修が行われている。	文野
	2	人事に関する計画	女性や外国人研究者がバランスよく採用されている。	文野
			性別や国籍についても多様性を持たせようと試みられている。B評価は妥当である。	中山
	3	環境対策・安全管理の推進	労働災害件数が毎年十数件発生している。限りなくゼロを目指すべきである。	文野
	4	情報の公開と保護	情報公開のため法人文書ファイル管理簿情報をホームページに掲載したことは評価に値する。情報セキュリティに関しては引き続きウイルス感染の予防等に努めていただきたい。	文野
5	積立金の処分	積立金は中期計画で定められた目的用途に使われている。	文野	